

# 日本語能力チェックシート（聞く・話す・読む・書く）

注：チェックシートでは、以下のように表記しています。

生活言語としての日本語→生活日本語      学習言語としての日本語→学習日本語

## （聞く）

レベル1	日本語に初めて接する。
	自分からの発話がなく、日本語を聞くことだけ（理解なし）に集中する。
	視覚的なものや声の変化で内容を理解しようとする。
レベル2	あいさつの言葉を聞いて、答えることができる。
	簡単な指示（「書いてください」「見てください」など）を理解し、応じる。
	うなづいていても内容を理解していないこともある。
レベル3	日常的な簡単な質問（「ご飯を食べましたか」など）に、「はい」「いいえ」や首を振って答える。
	日常的な内容でも、少し複雑な表現（複文など）になると理解が難しい。
	学習内容は補助（個別指導、言い換えなど）が必要。
レベル4	助詞などが理解しにくく、正しい内容で理解していない。
	学齢に応じた日常的な内容が理解できる。
	一斉授業での学習内容が、かなり理解できる。
レベル5	まとまった内容の話のポイントがかなり理解できる。
	細かな表現や深い内容の理解は、難しいことがある。
	学齢に応じた生活日本語、学習日本語ともにすべて理解できる。
	多様な表現をされている文でも正確に理解できる。

## （話す）

レベル1	初めて日本語を話す。
	日本語よりも、ジェスチャーを使う。
	自分からは話さず、相手の言ったことを繰り返す。
レベル2	母語で助けってもらったり、母語で話したりする。
	あいさつや「はい」「いいえ」など決まった表現ができる。
	健康に関する表現（「トイレに行きたい」「頭が痛い」など）ができる。
レベル3	安全に関する表現（「危ない」「助けて」など）ができる。
	単語をつなげて何とか伝えようとする。
	二語文・三語文・・・と徐々に文が出てくる。
レベル4	簡単な質問には短く答えるが、長く話そうとすると、文が切れる。
	一斉授業の流れの中で話に参加するのは難しいが、補助があれば参加できる。
	日本語の発話は増えるが、文法的には不正確（聞く側が理解できる範囲）。
レベル5	会話に入ったり、一斉授業の中でも話に参加できる。
	日常生活では、まとまった内容を話すことができる。
	学習では、複雑な内容や深い部分を伝えるのが難しい。
レベル5	ディスカッションなどにも参加できる（但し話の内容による）。
	学齢に応じた生活日本語、学習日本語ともにすべて話すことができる。
	学齢に応じた日常と学習の内容を正確な日本語を用い、適切なコミュニケーションが行える。

## (読む)

レベル1	自分の名前を読むことができる。
	いくつかの単語を読むことができる。
	視覚的情報に頼ることが多い。
レベル2	身近な話題に関するテキストの単語を日本語で認識しはじめる。
	日常生活に関する語句を日本語で認識しはじめる。
レベル3	話し言葉とテキスト内の言葉の差異が理解できない。
	教室の中や身の回りにある言葉を読むことができる。
	短く単純で、繰り返しが多い文章を読むことができる。
	知っている言葉だけを読み、知らない言葉は読みとばして内容を理解しようとする。
レベル4	語彙の説明などの補助があれば、説明文なども読むことができる。
	生活や学校場面に関係する広範囲のテキストを読んで理解できる。
	微妙な意味合いの違いについては、理解できないことがある。
	日本語母語話者よりも、文章を読むのに時間がかかる。
レベル5	文化的知識が必要な場合は、理解が困難なことがある。
	学齢に応じた生活日本語、学習日本語ともにすべて読むことができる。
	年齢で期待される範囲内で、テキストの意味を理解できる。

## (書く)

レベル1	ひらがな・カタカナを書いたことがない。
	母語で書くことはできる。
レベル2	自分の名前が日本語で書ける。
	板書などの文字を見ながら、書き写すことができる。
レベル3	耳で聞いた音や文を、文字として書き表すことができない。
	教室の中にある文字を書くことができる。
	例文が与えられれば、短い文を書くことができる。
	話し言葉に見られる誤用をそのまま反映した文を書く。
レベル4	主述の呼応関係、時制、助詞などに誤用が現れる。
	書くことに関して意欲的で、ある程度なめらかに書くことができる。
	語彙、文構造、言葉のニュアンス等に制限がある。
	日本語母語話者よりも、言葉を書くのに時間がかかる。
レベル5	誤用もいくらか残るが、意味伝達の妨げにはならない。
	学齢に応じた生活日本語、学習日本語ともにすべて書くことができる。
	多様な表現を用いて文章を書くことができる。